

て勝ち越しを決めると、九日目も鹿富士を退けて2敗を守り、逆転での連続優勝に向けて星の差一つで大神楽を追う形とした。「新大関でまずは勝ち越してホッとしました。」とこの日は国技館に顔を見せられなかった春日根親方がコメントを寄せた。

小結出羽翼は序盤で美空、春ノ翔の2横綱に敗れて2敗したものの、若ノ嶋、千代鈴、佐賀と1横綱2大関に勝ち、さらに優勝争いの単独トップに立った大神楽に唯一の黒星をつける大活躍を演じている。「出羽はこれまで三役で勝ち越したことがないんじゃないかなあ。」と勝間田親方。三役の実力がありながらその壁を破ることができなかったが、今場所は潜在的な地力を遺憾なく発揮している。

「今場所の出羽はひどい皮むけたような感じだなあ」と錦風親方。現在、7人の幕内力士を抱える勝間田部屋だが横綱大関を目指す力士が見当たらずに勝間田親方も頭を悩ませていたが、「やっぱり出羽じゃないか？」と思わせる今場所の活躍ぶりだ。八日目には鹿富士を、九日目には若巨をともに押し倒して、五日目から5連勝して2敗を守って優勝争いに加わっている。

今場所も残すところあと2日。優勝争いを演じる4力士は、出羽翼はすでに他の3力士との対戦を終えているが、春ノ翔、千代鈴、大神楽は直接対決が残っていて誰が優勝するかわからない状況だ。

ただ、先頭を走る大神楽が一步リードしていることは間違いない。大神楽は第142回に閉脇で11戦全勝で優勝を飾り、翌場所に大関に昇進したものの磯ノ海親方の特訓でパフォーマンスを崩した大関在位5場所陥落。その後は平幕に落ちるなどしたが、かつての閉脇に復帰して7勝をあげると、かつての相撲が



出羽翼○(押し倒し)●若巨



鹿富士●(押し倒し)○出羽翼

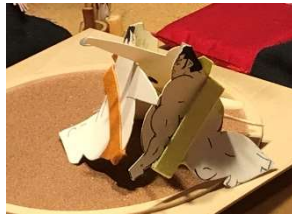
2敗に後退した宇治家は九日目に渡海を素早い攻めで左差しから寄り切って2敗をキープ。星一つ差で暫を追う展開に変わったが、逆転での優勝を狙うには残り2日連勝が必須となる。暫の相撲にもよるがここまで好調に優勝は厳しいが、相撲は最後まで何が

優勝に向けて更に白星を重ねたい暫に対し、西勢ノ里も勝ち越しがからも気合が入るところだ。2階でモニター観戦の友砂親方の「暫がんばれ」の声も届く中、宇治家戦と同様にガツツリと廻しを掴んだ暫が危ない寄り切りで勝負を決めて、2場所連続での優勝も見えてきた。

「もし10勝1敗で優勝すれば、場所後の大関昇進もあり得る！」と朝日松理事長がコメントしたと伝わった。そうだとすると、残り2日に優勝と大関復帰がかかることとなり、磯ノ海親方も自ずと力が入ることだろう。はまた横綱の貫禄で春ノ翔が3回目の優勝を飾るのか、それとも千代鈴の連続優勝となるのか、あるいは伏兵出羽翼が初優勝を飾るのか、千秋楽の開催が待たれる。(錦風)

十両は暫が単独1敗

十両は九日目を終えて暫が1敗で単独トップに立ち2敗で宇治家が追う展開となった。八日目、1敗同士で暫と宇治家の直接対決が組まれた。どちらも勝てば優勝に近づく大事な一番となったが、立ち合いから優位に攻めた暫が寄り切りで退けた暫を守った。そして迎えた九日目は西勢ノ里戦。



暫○(寄り切り)●宇治家



西勢里●(寄り切り)○暫

起こるかわからない。もし十日目に暫が勝って宇治家が敗れるような事になると、暫の優勝が千秋楽を待たずに決まることも予想される。

まだまだ優勝の可能性を残す西神門は八日目に桜吹雪に勝って勝ち越しを決め、九日目の相手は柏陵山。2敗でこのまま押し倒して行きたいところだったが、柏陵山の暫に倒しに覚を取り3敗目を喫した。幕内昇進のためには残り2日が大事な相撲となってくる。

勝ノ川は中日、七日目と連敗で優勝争いから後退したが、吉備の里と夢ノ花を下して何とか勝ち越しに近づいた。可能性は低いが残りの上位陣の星勘定次第では、こちらも来場所の幕内昇進も見えてくるかもしれない。

十二枚目の琴乃王が7敗目を喫し幕下への陥落が決まった。三役も務めたことから幕下で取ることはなさそうだが、引退となる見込みだ。新十両では駒波が九日目に昊翔龍に敗れて惜しくも負け越し。陥落を阻止するにはあと2日勝つしかなくなった。(勝間田)

幕下は蛮国か鹿麒麟か

幕下は蛮国と鹿麒麟が4連勝とし千秋楽で優勝を争うことになった。

今や幕下随一の注目力士となっている蛮国だが土俵に上がると、連日館内から「蛮国がんばれ」と声援が飛び人気振りを見せている。そしてその期待に応えるように、ここまですべて白星を4つ並べた。

四日目の相手は磯日ノ丸。先場所同部屋の日ノ丸に連勝を止められ十両昇進も阻止されただけに、気合を入れた寄り切りで破った。これで悲願の昇進も確実となり後は優勝で花を添えるだけである。



蛮国○(寄り切り)●磯日丸

その千秋楽の相手となるのが鹿賀乃戸部屋の鹿麒麟。3連勝同士で茅ヶ崎との対戦となり、先場所三段目での対戦では茅ヶ崎が勝っている。互角の立ち合いでがっぷり四つから

鹿麒麟が上手から強引に振り回すと、その勢いで茅ヶ崎が土俵を割り勝負が決した。

鹿麒麟は序二段優勝の後、三段目を2場所とも4勝1敗で通過し、新幕下でも4連勝と過し、一気に大化けの予感。将来の鹿賀乃戸部屋を背負って立つ救世主となる存在かも知れない。親方の期待も日増しに高くなっていきそう。

上位では十両昇進を掛けた戦いが続いている。一場所では復讐を果たした筆頭の夢ノ天と電幕がともに2勝2敗となり、千秋楽に勝ち越しを賭けた大事な一番となる。他には西四枚目の真田丸が勝ち越しを決め、4勝とすれば昇進の可能性が出てきそう。(山里)

三段目、序の口

三段目は磯若と富士の海、序二段は自力岳と難波山、序の口は里錦が4連勝を果たした。三段目ではベテラン富士の海が弟弟子の蛮国の活躍に奮奮してかまさかの活躍。

また序二段の難波山は桃天龍を寄り切ったの4連勝。秋田部屋初の各段優勝を目指して周囲の期待も高まっている。



桃天龍●(寄り切り)○難波山



猿飛●(押し倒し)○富士海



茅ヶ崎●(寄り切り)○鹿麒麟



里錦○(寄り切り)●双歌仙